## 感染症の登園基準 令和7年度

R.7・1月改訂

\*登園時に登園届が必要になります。登園届の用紙は園にあります。

	病名	潜伏期	感染しやすい期間	主な症状	登園基準
1	インフルエンザ	1~4日	症状が有る期間(発症	発熱・全身倦怠	発症日を0日として
			前 24 時間から発病後	筋肉痛・鼻水・咽	発症後から5日を経過し、か
			3 日程度、感染力大)	頭痛・咳	つ解熱後3日を経過するまで
2	百日咳	7~10日	抗菌薬を服用しない	発作性咳の長期	特有な咳が消失、又は5日間
			場合、咳出現後3週間	反復、持続	の抗菌薬の治療が終了するま
			を経過するまで		で。
3	はしか(麻疹)	8~12日	発症1日前から発疹出	咳、鼻水、発熱	解熱後3日を経過しているこ
			現後の4日後まで	粘膜疹、コプリ	٤
				ック班	
4	おたふく風邪	16~18日	症状3日前から耳下腺	発熱、耳下腺·舌	耳下腺、顎下腺、舌下腺の腫
	(流行性耳下腺炎)		腫脹後 4 日	下腺・顎下腺の	れが発現した後 5 日を経過
				膨張および圧痛	し、かつ全身状態が良好にな
					るまで
5	風疹	16~18	発疹出現の前後7日	発疹、発熱、リン	発疹が消失するまで。
				パ腺主腫脹大	
6	水ぼうそう	14~16日	発疹出現前 1、2 日前	軽熱、被覆部に	全ての発疹がかさぶたになっ
	(水痘)		からすべて(痂皮形	発疹・斑点丘~	てから。
	(帯状疱疹)		成) かさぶたになるま	疹状~水庖~顆	
			で	粒状かさぶた。	
7	アデノウィルス	2~14日	潜伏期後半~発症後	発熱・全身症状・	発熱・充血等の主要症状が消
	プール熱 (咽頭結膜		約5日間	咽頭炎と結膜炎	失した後2日経過してから。
	熱)など			の合併症	
8	流行性角結膜炎	2~14日	発熱、充血等の症状が	軽熱・頭痛・全身	結膜炎の症状が消失している
			出現した数日間	倦怠感・結膜の	こと。
				炎症・眼瞼浮腫・	
				目やに	
9	胃腸炎	12 h~3 日	症状のある間と、症状	発熱・嘔吐・下	嘔吐、下痢等の症状が治まり
			消失後 1 週間	痢・腹痛	普段の食事がとれること。
1 0	RS ウイルス感染症	4~6日	呼吸器症状のある間	発熱・咳・喘鳴、	呼吸器症状が消失し、全身状
				呼吸困難	態が良いこと。

潰瘍が発症した数日		病名	潜伏期	感染しやすい期間	主な症状	登園基準
2日液   12   手足口病   3~6日   手足や口腔内に水泡・   感冒様症状、手   発熱や口腔内の水疱・潰瘍の食事がと   液   を担けの数日間   便の   中に1ヶ月程度ウイル   ス排出あり注意要)   13   ペルパンギーナ   3~6日   急性期の数日間(便の   南熱・咽頭痛・咽   影響がなく、普段の食事がと   水心   水泡   影響がなく、普段の食事がと   北ること。   14   リンゴ病   4~14日   発疹出現前の1週間   顔面蝶型紅斑, 全身状態が良いこと。 (紅斑が残っている場合には   活動により赤みが強くなることがある。)   15   溶連菌感染症   2~5日   適切な抗菌薬治療を   発熱・咽頭痛・扁   抗菌薬の内服開始から 24 時   開始する前と開始後1   株腺炎・苺舌、   間が経過するまで。   間が経過するまで。   16   マイコプラズマ肺炎   2~3日   適切な抗菌薬治療開   呼吸困難(重 解熱し激しい咳が治まってし	1 1	急性出血性結膜炎	2~3 日	発病後約4日	流涙・結膜充	治癒するまで。
1 2   手足口病   3~6 日   手足や口腔内に水泡・					血・眼瞼浮腫・	
潰瘍が発症した数日					浸出液	
間   抱   れること。	1 2	手足口病	3~6 日	手足や口腔内に水泡・	感冒様症状、手	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の
1 3				潰瘍が発症した数日	足口に赤班〜水	影響がなく、普段の食事がと
中に1ヶ月程度ウイル ス排出あり注意要)				間	疱	れること。
14       リンゴ病 (伝染性紅斑)       4 ~14 日 発疹出現前の1週間 顔面蝶型紅斑, 全身状態が良いこと。 (紅斑が残っている場合には 疹 活動により赤みが強くなることがある。)         15       溶連菌感染症       2~5 日 適切な抗菌薬治療を 開始する前と開始後1 機腺炎・苺舌、 目間 頸部リンパ節炎       抗菌薬の内服開始から 24 時 頭部リンパ節炎         16       マイコプラズマ肺炎       2~3 日 適切な抗菌薬治療開 呼吸困難 (重 解熱し激しい咳が治まっている場合には がおまっている場合には がある。)	1 3	ヘルパンギーナ	3~6日	急性期の数日間(便の	高熱・咽頭痛・咽	発熱や口腔内の水疱・潰瘍の
14       リンゴ病 (伝染性紅斑)       4~14日       発疹出現前の1週間       顔面蝶型紅斑, 特に頸部紅斑発 特に頸部紅斑発 疹       全身状態が良いこと。 (紅斑が残っている場合には活動により赤みが強くなることがある。)         15       溶連菌感染症       2~5日       適切な抗菌薬治療を開始後1 開始する前と開始後1 財験・毒舌、 日間       抗菌薬の内服開始から 24 時間が経過するまで。         16       マイコプラズマ肺炎       2~3日       適切な抗菌薬治療開       呼吸困難(重)       解熱し激しい咳が治まっている場合には活動により赤みが強くなることがある。)				中に1ヶ月程度ウイル	頭に水泡	影響がなく、普段の食事がと
(伝染性紅斑) 特に頸部紅斑発 (紅斑が残っている場合には 疹 活動により赤みが強くなることがある。)  15 溶連菌感染症 2~5日 適切な抗菌薬治療を 発熱・咽頭痛・扁 開始する前と開始後1 桃腺炎・苺舌、 目が経過するまで。 日間 頸部リンパ節炎 で吸困難 (重 解熱し激しい咳が治まってい				ス排出あり注意要)		れること。
	1 4	リンゴ病	4~14日	発疹出現前の1週間	顔面蝶型紅斑,	全身状態が良いこと。
15       溶連菌感染症       2~5日       適切な抗菌薬治療を 開始する前と開始後1 機腺炎・苺舌、 間が経過するまで。		(伝染性紅斑)			特に頸部紅斑発	(紅斑が残っている場合には
15 溶連菌感染症 2~5日 適切な抗菌薬治療を 発熱・咽頭痛・扁 抗菌薬の内服開始から 24 時 開始する前と開始後 1 桃腺炎・苺舌、 目間 頸部リンパ節炎 2~3日 適切な抗菌薬治療開 呼吸困難 (重 解熱し激しい咳が治まってい					疹	活動により赤みが強くなるこ
開始する前と開始後 1 桃腺炎・苺舌、 間が経過するまで。 日間 頸部リンパ節炎 16 マイコプラズマ肺炎 2~3日 適切な抗菌薬治療開 呼吸困難 (重 解熱し激しい咳が治まってい						とがある。)
日間 頸部リンパ節炎 16 マイコプラズマ肺炎 2~3日 適切な抗菌薬治療開 呼吸困難 (重 解熱し激しい咳が治まって)	1 5	溶連菌感染症	2~5 日	適切な抗菌薬治療を	発熱・咽頭痛・扁	抗菌薬の内服開始から 24 時
16 マイコプラズマ肺炎 2~3日 適切な抗菌薬治療開 呼吸困難 (重 解熱し激しい咳が治まって)				開始する前と開始後1	桃腺炎・苺舌、	間が経過するまで。
				日間	頸部リンパ節炎	
(うつる肺炎) 始前と開始後数日間 症) 咳、発熱 ること	1 6	マイコプラズマ肺炎	2~3 日	適切な抗菌薬治療開	呼吸困難(重	解熱し激しい咳が治まってい
ABS CHARLES ALIM IN 1971 SOME OF CO.		(うつる肺炎)		始前と開始後数日間	症)咳、発熱	ること。
17 突発性発疹 9~10日 高熱 3 日後に 機嫌がよく全身状態が良いこ	1 7	突発性発疹	9~10 日		高熱 3 日後に	機嫌がよく全身状態が良いこ
全身に発疹と。					全身に発疹	と。
18 ヒトメタニューモウ 4~5日 呼吸器症状のある間 発熱・咳・喘鳴・ 咳などの症状が安定した後、全身	18	ヒトメタニューモウ	4~5日	呼吸器症状のある間	発熱・咳・喘鳴・	咳などの症状が安定した後、全身
イルス感染症 嘔吐・下痢 状態が良いこと。		イルス感染症			嘔吐・下痢	状態が良いこと。
19 とびひ 7~10日 水泡消失まで 主として豆粒大 他人へ感染の恐れがないと医	1 9	とびひ	7~10日	水泡消失まで	主として豆粒大	他人へ感染の恐れがないと医
(伝染性膿痂疹) の水泡、かゆみ 師が認めたとき *		(伝染性膿痂疹)			の水泡、かゆみ	師が認めたとき *
20 水いぼ 2~7W 球状のいぼ 他人へ感染の恐れがないと医	2 0	水いぼ	2~7W		球状のいぼ	他人へ感染の恐れがないと医
(伝染性軟属腫) 師が認めたとき *		(伝染性軟属腫)				師が認めたとき *
21 新型コロナウイ 発症後5日間 発熱・呼吸器症 発症した後5日を経過し、カ	2 1	新型コロナウイ	<b>₩</b> 2 □	発症後5日間	発熱・呼吸器症	発症した後5日を経過し、か
		ルス感染症	ボリろ 日		状・頭痛・倦怠感	つ、症状が軽快した後1日を
経過すること						経過すること

<sup>\*19.20</sup>は、浸出液が出ているときには、必ず患部をガーゼ等で覆ってから登園してください。

<sup>★</sup>前日に嘔吐や下痢、高熱 (38.0°C以上) のあった場合はお預かり出来ません。また、朝の時点で、37.5°C以上の発熱がある時は、お子様をお預かり出来ません。家族内で感染症が発生した場合、園児も療養期間中はお休みのご協力をお願いします。園内の感染症拡大防止にご協力をよろしくお願いいたします